

令和 3 年度(2021年度) 審判関係資料

JVA審判規則委員会

令和 3 年 2 月 23 日

【資料目次】

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| P 1 ～ 3 | 6 人制ルール取り扱い【追加事項&再確認】 |
| P 4 | 6 人制審判実技マニュアル【修正資料】 |
| P 5 ～ 8 | 9 人制ルール取り扱い【追加・訂正事項&再確認】 |
| P 9 ～ 11 | 9 人制審判実技マニュアル【ルールブックページ番号等の修正資料】 |
| P 12 ～ 13 | ビーチバレーボールルール取り扱い【追加事項&再確認】 |
| P 14 ～ 16 | ビーチバレーボール審判実技マニュアル【修正資料】 |

2021年度 6人制ルールの取り扱いについて【追加事項】

1 ボールをプレーすること（PLAYING THE BALL）に関する事項

9.1 チームのヒット（TEAM HITS）

ヒットとは、インプレー中の選手によるボールへの接触である。

（注）

- 1 インプレー中の選手長い髪の毛がボールに触れても、ヒット（ボールへの接触）と判断しない。したがって、相手のアタックヒットがブロックやレシーブ時に髪の毛に触れてもボールコンタクトと判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

2 リベロ（THE LIBERO PLAYER）に関する事項

19.3 リベロに関する動作（ACTION INVOLVING THE LIBERO）

19.3.2.9 不法なリベロリプレイメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員より正しく直され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

（注）

- 1 アシスタントスコアラーは、サービス許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし指摘し、チームには遅延の罰則が適用される。この時のリベロリプレイメントは認められない。ただし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。

6 人制ルールの取り扱いについて 【再確認】

※注釈のみを掲載しました。詳しくはルールブックを参照してください。

7.3 スターティングラインアップ 【2002】

スターティングラインアップについて、両チームのラインアップをスコアラースコアシートに記入し終えたら、チームはラインアップを訂正することはできない。提出した後でそのセットが始まる前に、スターティングラインアップの選手が負傷した場合でも、原則として変更を認めず正規の選手交代の手続きをする。

15.3 正式な試合中断の要求 【2015】

何らかの理由でラリーがやり直しとなった場合（ダブルフォルト・ノーカウント）は、ラリーの完了としない。したがって、両チームからの正規の試合中断やリベロリプレイメントは認められない。ただし、選手の負傷や病気によりラリーを止めた場合は、その選手の選手交代やリベロリプレイメントは認められる。

※ブザー 【2015】

ラリー中、ブザーが鳴ったときの対応について

- ① スコアラースコアシートからのブザーか、ベンチからのブザーかを確認する。
- ② スコアラースコアシートからのブザーであれば、ホイッスルしてラリーを止め、内容を確認して判定する。
- ③ ベンチからのブザーであれば、ラリーを続け、ラリーが終了した時点で、「なぜ鳴ったか」「意図的かどうか」を確認し対応する。
- ④ ベンチからのブザーはあくまでも予鈴で、ブザーでラリーを止めることはしない。ラリーを止めるのはホイッスルである。

15.5 選手交代 【2010】

ナンバーパドルおよびブザーを使用しないときの基本的な手順は下記の通りである。

- ① 交代選手がサブスティテュションゾーンに入ったら、副審が吹笛しハンドシグナルを示す。
- ② 副審は、ポールのそばで選手交代をコントロールする。
- ③ 副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせる。
- ④ 副審は、コート内の交代する選手に手を上げさせる。
- ⑤ スコアラースコアシートは交代できることを確認できれば、軽く手を挙げて合図を送る。交代できない場合は手を振る。
- ⑥ 副審は、スコアラースコアシートを確認し、手で合図をして選手を交代させる。
- ⑦ スコアラースコアシートはスコアシートに記入し、完了したら両手を上げる。
- ⑧ 複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑦の手順を同様に行う。
- ⑨ 副審はスコアラースコアシートを確認し、完了を主審に知らせる。

19.4 新しいリベロの再指名 【2011】

- ① チームに登録されているリベロ（1人もしくは2人）すべてが、負傷、病気、退場、失格、あるいはいかなる理由であってもプレーをすることができないと宣言されたとき、監督（監督不在の場合はゲームキャプテン）はその時点でコート上にいない他の選手（リベロと入れ替わった選手を除く）を、その試合の終了までリベロとして再指名することができる。
 - ◆リベロがコート上にいるときでも再指名することができる
 - ◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。
- ② 再指名された選手（リベロ）は、ビブスを着るか、アクティngrリベロと同じユニフォームを着る。しかし、番号は自身と同じものを付ける。
- ③ ビブスは各チームで準備する。

※リベロに関する国内での特別な取り扱い 【2011】

1チームが7人（リベロが1人）、8人（リベロが2人）の場合、1名の選手が負傷や病気によりプレーの続行が不可能になった場合は、リベロを加えて6名の選手にして競技を続行することができる。ただし、7人（リベロが1人）の場合は、ユニフォームはリベロのユニフォームのままで競技することができるが、8人（リベロが2人）の場合は選手と同じユニフォームに着替えるか、ビブスをつけるなどでリベロとわかるようにしなければならない。なお、負傷や病気となった選手はその試合、コートに戻ることはできない。

21 不法な行為とその罰則【2014】

- ① 1回目の軽度の不法な行為があった場合は、ステージ1として処置する。ステージ1の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。また、軽度の不法な行為の程度によっては、1回目であってもステージ2から適用される場合がある。
- ② チームの2度目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、スコアシートに記載される。

主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同チームのどの選手でも、再度、軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

（例） 軽度の不法な行為 1回目 ⇒ 同2回目 ⇒ 3回目 ⇒ 同4回目
選手 No. 5 ⇒ No. 6 ⇒ No. 7 ⇒ No. 8
処置 口頭に警告 ⇒ イエローカード ⇒ レッドカード ⇒ レッドカード

- ③ チームに先に反則・退場・失格の罰則を適用した後に、同じチームが軽度の不法な行為を行った場合は、口頭での警告は行わず、上記のステージ2から始まり処置を行う。

（例） 不法な行為 ⇒ 軽度の不法な行為 1回目 ⇒ 同2回目 ⇒ 同4回目
選手 No. 5 ⇒ No. 6 ⇒ No. 7 ⇒ No. 8
処置 レッドカード ⇒ イエローカード ⇒ レッドカード ⇒ レッドカード

- ④ セットの最終ポイント決定後の不法な行為に対する処置は、その時点で行い、直後のセット開始時に罰則を適用する。

6人制審判実技マニュアル 修正点

2021 年度版 資料

審判規則委員会 指導部

P21 「リベロの登録」

- ② 選手6名、リベロ1名の構成のチームで、選手が負傷してプレーできなくなった場合、リベロが選手として参加することができる。また、選手6名、リベロ2名の構成の場合、選手が負傷してプレーできなくなった場合、どちらかのリベロが選手として参加することができる。この場合、ビブスをつけるなどでリベロとわかるようにする。負傷した選手はその試合コートに戻ることはできない。

⇒ 1チームが7人（リベロが1人）、8人（リベロ2人）の場合、1名の選手が負傷や病気によりプレーの続行不可能になった場合は、リベロを加えて6名の選手にして競技を続行することができる。ただし、7人（リベロが1人）の場合は、ユニフォームはリベロのユニフォームのままで競技することができるが、8人（リベロが2人）の場合はリベロのユニフォームに着替えるか、ビブスをつけるなどでリベロとわかるようにしなければならない。なお、負傷や病気となった選手はその試合、コートに戻ることはできない。

P21 「リベロのリプレイスメント」

- ② 1つのラリーの完了とは、どちらかのチームが得点を得ることが条件である。ダブルフォルト（ノーカウント）等はラリーの完了と考える。リベロリプレイスメントや正規の選手交代はできない。

⇒ 1つのラリーの完了とは、どちらかのチームが得点を得ることが条件である。ダブルフォルト（ノーカウント）はラリーの完了と考える。正規の試合中断やリベロリプレイスメントは認められない。

P21 「リベロのリプレイスメント」 新規

主・副審 ⇒

- ④ 次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員より正しく直され、チームには遅延行為に対する罰則を適用する。

スコアラー・アシスタントスコアラー ⇒

- ④ 不法なリベロリプレイスメントが行われた時、アシスタントスコアラーは、サービスの許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし指摘し、チームには遅延行為に対する罰則を適用する。

P21 「リベロの再指名」

- ・ チームに登録されているリベロ（1人もしくは2人）すべてが、負傷、病気、退場、失格等によりプレーをすることができないと宣言された時、監督（監督不在の場合はゲームキャプテン）はその時点でコート上にいない他の選手（リベロと入れ替わった選手を除く）を、その試合終了までリベロとして再指名することができる。

⇒ チームに登録されているリベロ（1人もしくは2人）すべてが、負傷、病気、退場、失格あるいはいかなる理由であってもプレーをすることができないと宣言された時、監督（監督不在の場合はゲームキャプテン）はその時点でコート上にいない他の選手（リベロと入れ替わった選手を除く）を、その試合終了までリベロとして再指名することができる。

2021年度 9人制ルールの取り扱い

【追加事項】

1 試合中断の不当な要求と処置に関する事項

第14条第1項 不当な要求

タイムアウトまたは選手交代の要求で、次のいずれかに該当するものは、不当な要求とする。

- (1) ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時か、その後の要求
- (2) 要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3) 同じ中断中の2回目の選手交代の要求（インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。）
- (4) 規定回数を超えた要求
- (5) 第1サービスと第2サービスの間の要求

(注)

1 1回目の不当な要求は拒否をして、記録用紙に記載する。

(1) 『サービス許可の吹笛と同時か、その後の要求』は、ラリー終了後に公式記録用紙に記録する。

(2) 『要求する権利のない競技参加者がした要求』，『同じ中断中の2回目の選手交代要求』，『規定回数を超えた要求』と『第1サービスと第2サービスの間の要求』は、これらの要求があった時点で公式記録用紙に記録する。

※上記のケースで副審が吹笛してしまった場合は、タイムアウトの要求等のケースで選手がベンチに戻ってしまうなど試合を遅らせた主審が判断した時は試合の遅延とし、特に試合を遅らせずに再開できる時には、遅延としない。

2 2回目の不当な要求（遅延警告）の処置の方法

(1) 『サービス許可の吹笛と同時か、その後の要求』は、ラリー終了後に処置する。

(2) 『要求する権利のない競技参加者がした要求』，『同じ中断中の2回目の選手交代要求』，『規定回数を超えた要求』と『第1サービスと第2サービスの間の要求』は、これらの要求があった時点で処置をする。

以上のように不当な要求があった場合、その都度記録員は、公式記録用紙に記録し、副審は、その内容を主審に報告する。

2 ボールアウトに関する事項

第21条 ボールイン・アウト

- 1 ボールは、両アンテナ間でネット上方の許容空間を通過させ相手コートへ送らなければならない。このボールが次の状態になったときは、ボールアウトとする。
 - (1) アンテナ、アンテナ外側のネット、コート外の床面または物体、プレーしていない選手以外の人に触れたとき。
 - (2) ネットの下方をボールが完全に通過したとき。
 - (3) ボールの全体またはその一部でも、許容空間外側のネットの垂直面を完全に通過したとき。ただし、次の第21条2に該当する場合は除く。
- 2 ボールの全体または一部が、許容空間外側のネット垂直面を越えて、相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかで、以下の条件のもと、ボールを取り戻すことができる。
 - (1) ボールの全体または一部は、再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えて取り戻すこと。
 - (2) 選手は相手側のフリーゾーン内でプレーすること。

(注)

- 1 許容空間外のボールの取り戻しが可能となった事により、副審の位置取りが重要となる。

「ボールを取り戻すケースで許容空間内に返球された時の位置取りは、基本的にはボールの後か記録席の前とするが、プレーヤーの邪魔にならなければボールのコースに入って判定をする。」

プレーヤーはネットの下から相手方空間に侵入しても反則とはならない。ただし、相手方プレーへの妨害があると判断したらインターフェアの反則とするため、反則のあった瞬間に、吹笛することが大切である。また、取り戻しのプレーで相手コート内に侵入し、相手側のフリーゾーンへ行った場合は、インターフェアの反則とする。
- 2 インプレー中の選手の長い髪の毛がボールに触れても、ヒット（ボールへの接触）と判断しない。したがって、相手のアタックヒットがブロックやレシーブ時に長い髪の毛に触れてもワンタッチと判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

9人制ルール取り扱い 【再確認】

第4条 チーム

第2項 試合への出場

【2014】【2013】

構成メンバー表に記載され公式記録用紙に記載された選手だけが、その試合に出場することができる。試合前に提出されたサービスオーダー票には、先発選手番号がサービス順に、また交代選手番号が示されているが、その試合に出場するためには試合開始時に不在の者を含め、すべての選手番号が記載されている必要がある。したがって、副審は構成メンバー表と提出されたサービスオーダー票をチェックし、記載されていない番号がある場合は監督に確認し記載させる。

（監督が不在の場合は、チームキャプテンに確認し記載させ、サービスオーダー票のサイン欄へのサインもさせる）

第5条 競技参加者の権利と義務

第1項 基本的な権利と義務

【2015】【2014】

- 1 競技場内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
- 2 監督は、試合終了後、主審・副審にフェアプレーの精神で「握手」を交わす。

第13条 選手交代

第1項 正規の選手交代

【2018】

- 1 交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- 2 複数の選手交代を要求したとき、1組の交代選手が遅れた場合、その遅れた選手交代は拒否される。
- 3 複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- 4 複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- 5 5回の選手交代を終えた後に、2人以上の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきたとき、副審は監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。

「選手交代の手順」

- ①交代選手が、選手交代ゾーンに入ったら、副審が選手交代の吹笛しハンドシグナルを示す。
- ②副審は、ポール付近で選手交代をコントロールする。
- ③副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせて片方の手を挙げさせる。
- ④副審は、コート内の交代する選手に片方の手を挙げさせる。
- ⑤記録員は、その交代が許可できる組合せであれば片方の手を挙げて副審に合図を送る。
- ⑥許可できない場合は記録員が片方の手を横に振る。
- ⑦副審は、記録員を確認し、選手に手で合図をして交代を許可する。
- ⑧記録員は記録用紙に交代の状況を記入して、手続きが完了したら両手を挙げる。
- ⑨複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑧の手順を同様に行う。
- ⑩副審は、記録員を確認し、完了を主審に知らせる。

【2017】【2016】

- 1 選手交代は、同じ中断中に連続して要求することはできず、同じチームによる2つの別々の選手交代の間には、ラリーの終了がなければならない。したがって、同じ中断中に連続して選手交代の要求があった場合は、不当な要求として処置する。

第17条 特殊な事情による試合の中断と処置

【2017】【2016】【2015】【2014】【2013】【2012】【2011】【2010】【2009】

- 1 ノーカウントにした後は、同じサーバーの第1サービスで再開をする。(ダブルファウル)
- 2 サービスの吹笛後、サービスが打たれる前に、他のボールや他のコート選手がコートに侵入したときは、片方の手を挙げて止める。(ノーカウントにはしない)
- 3 「ラリー終了」(第12条1、第13条第1項1)とは、どちらかのチームが得点を得る場合をいう。したがって、ノーカウントになった場合等、得点を伴わないときは、選手交代及びタイムアウトの要求はできない。

第20条 ネット付近でのプレー

第3項 タッチネット

【2016】

タッチネットの反則となるのは、両アンテナ間のネット(アンテナを含む)に触れた場合である。

第5項 インターフェア

【2012】

- 1 ネットプレーを予測して、ネットに接近し、身体を前に出したり、手および腕を前に出して、相手のネットプレーを妨害した場合は、反則となる。
- 2 ネットプレーの前に止まっても、ネットプレーを妨害したことが明らかであれば、反則となる。

第27条 不法な行為

【2015】【2014】【2013】

- 1 チームの1回目の軽度の不法な行為があった場合は、第1段階として処置する。第1段階の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。また、軽度の不法な行為の程度によっては、1回目であっても第2段階から適用される場合がある。
- 2 チームの2回目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、記録用紙に記載される。主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同チームのどの選手でも再度軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

(例)	第1段階	⇒	第2段階				
選手	No.5	⇒	No.6	⇒	No.7	⇒	No.8
処置	口頭でチームに警告	⇒	イエローカード	⇒	レッドカード	⇒	レッドカード

- 3 チームに先にレッドカードの反則が出ているあとに、軽度の不法な行為が同じチームにあった場合は、口頭での警告は行わず、上記の第2段階から始まり処置を行う。

(例)	無作法な行為	⇒	軽度の不法な行為 1回目	⇒	軽度の不法な行為 2回目	⇒	軽度の不法な行為 3回目
選手	No.5	⇒	No.6	⇒	No.7	⇒	No.8
処置	レッドカード	⇒	イエローカード	⇒	レッドカード	⇒	レッドカード

- 4 セットの最終ポイント決定後の不法な行為に対する処置はその時点で行い、次のセットに罰則を適用する。

第33条 公式ハンドシグナル

第1項 主審と副審の公式ハンドシグナル

【2018】

- 1 主審がホイッスルした場合、反則をした選手が明らかであれば、選手を示す必要はない。

【2016】

- 1 チームからタイムアウトまたは選手交代の要求があり、副審が吹笛しその要求を受付けた場合、主審はハンドシグナルを示す必要はない。

【2015】

- 1 主審が反則をホイッスルした場合、副審は、ハンドシグナルを追従しない。
- 2 副審が反則をホイッスルした場合、反則の種類、反則した選手の順に、反則したチーム側でハンドシグナルを示し、主審が「サービスを行うチーム」を示した後に、ハンドシグナルを追従する。

● 9 人制審判実技マニュアルのルールブックページ番号等の修正箇所

頁	修正後	修正前
各頁	イエローカード レッドカード	黄カード 赤カード
P.1	記録員 ⑤セットが終了したときは、次のセットの開始までに必要事項を正確に記入すること。「公式記録記入法 4. セットが終了したとき（ルールブック <u>P.75</u> ）」	記録員 ⑤セットが終了したときは、次のセットの開始までに必要事項を正確に記入すること。「公式記録記入法 4. セットが終了したとき（ルールブック <u>P.72</u> ）」
P.3	プロトコール 付録(3) ルールブック <u>P.79</u>	プロトコール 付録(3) ルールブック <u>P.77</u>
P.4	試合の遅延 第 26 条 試合の遅延 ルールブック <u>P.48</u>	試合の遅延 第 26 条 試合の遅延 ルールブック <u>P.45</u>
	「遅延行為に対する罰則段階表」第 26 条 第 2 項 第 5 表 _____ 遅延行為に対する罰則において提示すべきカード ①遅延警告は、黄カードでハンドシグナルを示す。 ②遅延反則は、赤カードでハンドシグナルを示す。	「遅延行為に対する罰則段階表」第 26 条 第 2 項 第 5 表 <u>(P.45)</u> 遅延行為に対する罰則において提示すべきカード ①遅延警告は、黄カードでハンドシグナルを示す。 ②遅延反則は、赤カードでハンドシグナルを示す。
	軽度の不法な行為 第 27 条 不法な行為 第 1 項 軽度の不法な行為 ルールブック <u>P.49</u>	軽度の不法な行為 第 27 条 不法な行為 第 1 項 軽度の不法な行為 ルールブック <u>P.46</u>
P.5	不法な行為 【主審】 ②セット開始前およびセット間に生じたいかなる不法な行為も第 27 条第 2 項 _____ に従い罰則が適用される。その罰則は次のセットに適用される。 ③同一試合中、同一競技参加者が不法な行為を繰り返した場合には、第 27 条第 3 項第 6 表 _____ に示されるように、累進的な罰則が適用される。 (それぞれ連続して不法な行為を行った競技参加者は、より重い罰則が適用される。)	不法な行為 【主審】 ②セット開始前およびセット間に生じたいかなる不法な行為も第 27 条第 2 項 <u>(P.46)</u> に従い罰則が適用される。その罰則は次のセットに適用される。 ③同一試合中、同一競技参加者が不法な行為を繰り返した場合には、第 27 条第 3 項第 6 表 <u>(P.47)</u> に示されるように、累進的な罰則が適用される。 (それぞれ連続して不法な行為を行った競技参加者は、より重い罰則が適用される。)
P.6	ハンドシグナル 第 33 条 公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.59</u> 第 7 図 審判員の公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.61</u> ～	ハンドシグナル 第 33 条 公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.56</u> 第 7 図 審判員の公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.58</u> ～
P.8	サービス許可 第 29 条 主審	サービス許可 第 29 条 主審

頁	修正後	修正前
	第2項 責務 2 試合中(5) _____ _____ ルールブック <u>P.54</u>	第2項 責務 2 試合中(5) <u>「主審の責務」</u> 2 試合中(5) _____ ルールブック <u>P.51</u>
P.9	サービス順の誤りと処理 第23条 サービス 第5項 サービス順の誤りと処置 ルールブック <u>P.45</u>	サービス順の誤りと処理 第23条 サービス 第5項 サービス順の誤りと処置 ルールブック <u>P.42</u>
P.12	インターフェア 第20条 ネット付近でのプレー 第5項 インターフェア ルールブック <u>P.42</u>	インターフェア 第20条 ネット付近でのプレー 第5項 インターフェア ルールブック <u>P.40</u>
P.13	ネット上での同時プレー 第20条 ネット付近でのプレー 第2項 ネット上の同時プレー ルールブック <u>P.40</u>	ネット上での同時プレー 第20条 ネット付近でのプレー 第2項 ネット上の同時プレー ルールブック <u>P.38</u>
	オーバーネット 第20条 ネット付近でのプレー 第4項 オーバーネット ルールブック <u>P.41</u>	オーバーネット 第20条 ネット付近でのプレー 第4項 オーバーネット ルールブック <u>P.39</u>
	オーバーネット ②オーバーネットの判定基準は、ネット上部の白帯のふくらみを越えて相手コート上でボールに触れているかどうかである。ボールに触れる位置がどこであるかが大変重要である。(ルールブック <u>P.41</u> 第3図参照)	オーバーネット ②オーバーネットの判定基準は、ネット上部の白帯のふくらみを越えて相手コート上でボールに触れているかどうかである。ボールに触れる位置がどこであるかが大変重要である。(ルールブック <u>P.38</u> 第3図参照)
P.15	ハンドリング基準 第19条 ボールへの接触 ルールブック <u>P.39～40</u>	ハンドリング基準 第19条 ボールへの接触 ルールブック <u>P.37～38</u>
	オーバーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック <u>P.39～40</u>	オーバーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック <u>P.37～38</u>
	アンダーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック <u>P.39～40</u>	アンダーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック <u>P.37～38</u>
	トス 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング	トス 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング

頁	修正後	修正前
	第4項 ドリブル ルールブック <u>P.39～40</u>	第4項 ドリブル ルールブック <u>P.37～38</u>
P.16	タッチプレー 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング ルールブック <u>P.39</u>	タッチプレー 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング ルールブック <u>P.37</u>
P.17	不当な要求 第14条 試合中断の不当な要求 第1項 不当な要求 ルールブック <u>P.39</u>	不当な要求 第14条 試合中断の不当な要求 第1項 不当な要求 ルールブック <u>P.33～34</u>
	物体利用のプレー 第19条 ボールへの接触 第5項 物体利用のプレー ルールブック <u>P.40</u>	物体利用のプレー 第19条 ボールへの接触 第5項 物体利用のプレー ルールブック <u>P.38</u>
P.18	タイムアウト 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第12条 タイムアウト ルールブック <u>P.33</u>	タイムアウト 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第12条 タイムアウト ルールブック <u>P.31</u>
P.19	選手交代 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第13条 選手交代 ルールブック <u>P.33～35</u>	選手交代 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第13条 選手交代 ルールブック <u>P.31～33</u>
P.20	セット間の手続き 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第11条 セット間の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第13条 選手交代 第2項 セット間の選手交代 ルールブック <u>P.34</u>	セット間の手続き 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第11条 セット間の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第13条 選手交代 第2項 セット間の選手交代 ルールブック <u>P.32</u>
P.21	特殊な事情による中断 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置 ルールブック <u>P.37</u>	特殊な事情による中断 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置 ルールブック <u>P.35～36</u>
P.22	【公式記録記入法の解説】 付録(2) ルールブック <u>P.70～78</u>	【公式記録記入法の解説】 付録(2) ルールブック <u>P.67～75</u>

2021 年度 ビーチバレーボールルール取り扱いについて
〔追加事項〕

6 メディカルアシスタンスプロトコル (MEDICAL ASSISTANCE PROTOCOLS) に 関する事項〔一部追加事項〕

(注)

(中略)

2 選手が負傷/病気になった場合、ラリー終了後すぐに、副審は選手が医療支援を必要とするかどうかを確認する必要がある。

主審はまずチームタイムアウトを許可し、その後、次に問題が解決しない場合にのみ主審がメディカルアシスタンスプロトコルの開始を許可し、医療スタッフ到着後直ちに主審がホイッスルをしてプロトコルを開始する。

(中略)

5 試合(最初のサービス)が開始されていなくても、チームはタイムアウトを取得でき、必要であればメディカルアシスタンスを要求する権利がある。

6 主審は負傷選手の対応をし、副審はスコアラーとコート全体の対応をする。また、プロトコル終了は主審のホイッスルによって通知し、副審は選手が速やかにコートに戻るよう指示する。

7 スコアラーは下記の 2 つの時間を記録することが重要である。:

(1) 主審がメディカルアシスタンスプロトコル開始のホイッスルをした時間。

(2) 主審がメディカルアシスタンスプロトコル終了(許可された最大 5 分後、または公式医療スタッフによる治療が完了したと宣言された直後か治療が提供できない場合、または選手がプレーを再開する準備ができていると宣言した場合)のホイッスルをした時間。

8 さまざまな種類の負傷/病気と医療支援

負傷の種類		程度	措置	許可・計時
メディカルタイムアウト(出血をともなう負傷) MTO (Blood)		軽度	一遅延なく治療 一医療支援なし	主審により許可 許可された時点から 計時を開始
リカバリーインターフュージョン(RIT)	RIT (Traumatic Injury) 外傷 性負傷 プレー中に発生した事象のみ 例: 選手が支柱にぶつかる、選手間の衝突など	重度	一最初に、その時点で利用可能な TO または TTO, セット間を使用 一MTO または RIT/最大 5 分	
	RIT 猛暑等厳しい気象条件による病気 競技委員長が、審判委員長と協議し、公式に厳しい気象条件下であると通知した場合のみ		一最初にその時点で利用可能な TO またはその他の正規の中断を使用 一RIT/最大 5 分	主審により許可 許可された時点から 計時を開始
	RIT トイレの使用 通常の試合中、選手がトイレの使用で遅延した場合のみ		一選手は、ゲームを遅らせない限り、試合中にいつでもトイレを使用する権利がある。 一最初にその時点で利用可能な TO または TTO, セット間を使用 一RIT/最大 5 分 一選手が戻ったらすぐに試合が再開される。	主審により許可 TO, TTO, セット間の中断中から戻るのが遅れた時点で計時を開始

注: ゲームが遅延されない限り、医療支援はすべての正規およびその他のゲーム中断時に許可される。

8 外部からの妨害（EXTERNAL INTERFERENCE）に関する事項（追加事項）

17.2 外部からの妨害（EXTERNAL INTERFERENCE）

試合中に外部からなんらかの妨害があった場合には、プレーを止めなければならない。ラリーはやり直しとなる。

（注）

- 1 ラリー中、外部からボールが飛んできた場合、コートに向かってきているだけでなく、スコアラーステーブル前やエンドラインとバナーの間のフリーゾーンであっても、外部からの妨害を示唆しているため、選手が反応するしないに関わらず、プレーを止めなければならない。ただし、フリーゾーンへのボールの侵入等があってもラリーを決定づけるプレーの場合に限り、プレーの妨げにならない場合には、ラリーの完了を優先することができる。
- 2 突風等によりパラソルやベンチ周りの物が飛んだりした場合も、選手に危険がおよぶと判断し、外部からの妨害とみなす。

ビーチバレーボールルールの取り扱い【再確認】

コーチングについて【2018】

付録(1) 国内の大会に適用される 特別競技規則 *付則の1 【監督に関する規定】に関すること

（注）

- 1 両審判員は、監督が規定通りに行っているか、また、ラリー中に立ち上がったたり、指示や声援をしたりしていないか、注視しなければならない。
- 2 国民体育大会およびビーチバレー男女ジュニア選手権大会、大学選手権大会の場合は、上記に加えて以下についても確認しなければならない。
 - ① ラリー終了後次のサービス許可のホイッスルまでの間に、立ち上がって指示していないか。
 - ② チームのコートスイッチによりベンチを移動する際、指示することで遅延をしていないか、積極的にコントロールしなければならない。
 - ③ 猛暑の際に給水措置が取られる場合は、ベンチ移動の際に、監督が選手に飲み物を手渡しても良いが、遅延をした場合には遅延の罰則が適用される。
 - ④ 監督がタイムアウトを要求するときに、ハンドシグナルに加えて口頭で要求してもらうよう監督が試合前のサインをする際に、協力を要請する。（口頭だけの要求は許可されない。）
- 3 ベンチ入りしない監督やコーチ等によるコート外からのコーチングが疑わしい場合は、審判員は審判委員長および競技委員長をコートサイドに呼んで報告する。

※この場合の処置はチームに関係なく個人に対してのものであり罰則とはならない。
しかしコーチングを受けたチームに対し審判員は口頭で注意を行う。（これは罰則ではない）

2020 年度ビーチバレーボール審判実技マニュアルとの差し替え版 (P19~P21 メディカルアシスタンスプロトコール)

		主 審	副 審	スコアラー・アシスタントスコアラー
メディカルアシスタンスプロトコール	メディカルタイムアウト (出血を伴う負傷)	① 出血を伴う負傷は滞りなく治療されなければならない。 出血が微量で、試合が最小限の遅れのみで簡単に止めることができるならば、メディカルタイムアウト（以下 MTO）と考えなくて良い。 出血がより重大であるならば、それは医療行為が必要とみなし、治療する必要がある。チームにタイムアウトがあるか、またはラリー終了後にテクニカルタイムアウトまたはセット間になる場合、試合を遅らせることなく治療を許可して良い。主審は審判台を降りる必要は無い。それ以外の場合、主審は審判台を降りて、MTO の処置を行う。 ② 選手がコートに戻ることを許可する前に、完全に止血するか出血箇所をふさがなければならない。選手がコートに戻ることをホイッスルし、試合を再開する。	① 副審は、ただちにすべての試合球を調べ、血液が付いたボールは洗浄・消毒するために交換しなければならない。 ② 選手がコートに戻ることを許可される前に、完全に止血するか出血箇所をふさがなければならない。	① e スコアの場合は関連するボタンを入力し、e スコアが適用されていない場合は、スコアラーが手動で主・副審と同時に計時する。 計時は、主審が MTO または RIT を承認した後のホイッスルから開始し、ライトスコアのブザーが許可された最大 5 分間の終了を知らせるか、主審がホイッスルしたとき終了する。ただし、主・副審との確認を怠らないこと。 ② スコアラーは、状況を把握し、主・副審と確認のうえ、開始時間（時、分、秒）等、すべての結果を記録用紙に記入する（e スコアの場合は、関連するボタンを入力する）。
	リカバリーインターラプション (外傷性負傷)	① ラリー中に外傷性負傷 Traumatic Injury (選手が支柱やバナー等への、または選手間での衝突など) の負傷が発生した場合、ホイッスルして競技を止める。 (ラリー中に止めた場合はノーカウントとするが、ボールデッドのホイッスルと同時に、もしくはホイッスルの直前に負傷した場合、判定を出してからプレーを止める。 ② 負傷が軽度で簡単に治療できる場合、負傷した選手ができるだけ早くポジションに戻るために、積極的に経過を管掌し、副審が遅滞なくこれを処理していることを監督し、必要に応じて、相手チームに状況を説明しなければならない。 ③ 医療スタッフは試合を遅らせることなく、通常の試合の中断（タイム・アウト、TTO、セット間）中に選手に治療することができる。	① ラリー中に外傷性負傷 Traumatic Injury (選手が支柱やバナー等への、または選手間での、衝突など) の負傷が発生した場合、ホイッスルして競技を止める。 ② 選手がけがをしたとき、副審が直ちに当該選手のところへ行き、けがの種類と程度、治療が必要かを確認する。 ③ 負傷が軽度で簡単に治療できる場合、負傷した選手ができるだけ早くポジションに戻るために、積極的に経過を管掌し、遅滞なくこれを処理しなければならない。 ④ 治療が必要で、チームにタイムアウトが残っている場合は、タイムアウトを取って治療をすることをチームに伝え、大会医療スタッフか、チームの医療スタッフかを確認後、タイムアウト開始のホイッスルをする。医療スタッフの到着を待つ必要は無い。負傷チームが遅延なく治療することをコントロールする。 ⑤ 外傷性負傷の場合で、通常の試合の中断中に治療が終了しない場合、メディカルアシスタンスプロトコールを要求するか確認する。	

		主 審	副 審	スコアラー・アシスタントスコアラー
メ デ イ カ ル ア シ ス タ ン ス プ ロ ト コ ー ル	リ カ バ リ ー イ ン タ ー ラ プ シ ヨ ン （ 外 傷 性 負 傷 ）	④ 治療が終了せず、メディカルアシスタンスプロトコールの要求が無い場合、遅延の罰則を適用する。 ⑤ メディカルアシスタンスプロトコールの要求を副審から伝えられたら、審判台を降りて負傷の状況を確認し、リカバリーインターラプション（以下 RIT）の許可を決定する。 副審が呼び出した医療スタッフがコートに到着したら、ホイッスルとシグナルを示し、プロトコールを開始する。必要に応じてスコアラーにプロトコールの開始時間を伝える。 ※主審は主に負傷者の監督を行う。副審が連絡のためにコートを離れた場合、全体も監督する。 ⑥ あらゆる状況において、大会医療スタッフは状況を監督できるようにコートに来て、競技委員長および審判員委員長に報告するように要請される。 ⑦ 副審とアイコンタクトを取り、医療スタッフと負傷した選手に 1 分ごとに時間経過を通知する。 指定された大会医療スタッフが到着する前に、チームの医療スタッフが治療可能で、負傷した選手がプレーの再開を宣言するならば、レフェリーは大会医療スタッフの到着を待たずに試合を再開する。 ⑧ 主審は、回復時間終了のホイッスルをして、全選手にポジションに着くよう指示し、審判台に戻り、速やかにプレーを再開する。 負傷した選手がプレーを続行できない場合は、そのセット（試合）は終了する。 不完全なチームであると宣言され、大会責任者（競技委員長または審判員委員長、または大会実行委員長）が試合終了の最終決定をしたら、審判台に戻る必要はなく、スコアラーズテーブル前で試合終了のホイッスルと公式シグナルを示す。 ⑨ 主審は、試合終了後、記録用紙の備考欄に正しく記載されていることを確認してサインする。	⑥ タイムアウトが無い場合は、メディカルアシスタンスプロトコールの要求を確認し、主審に伝える。 ⑦ 主審が RIT を許可したら、コートに選手が選択した医療スタッフを呼び出す。 あらゆる状況において、大会医療スタッフは状況を監督できるようにコートに来て、競技委員長および審判員委員長に報告するように要請される。 ⑧ 治療中、負傷した選手以外の選手は、コートやフリーゾーンでボールを使ったり、それぞれのチームエリアに行ったりすることもできるが、チーム関係者と話すことはできない。副審は主にこれとスコアラーを監督する。 （国民体育大会およびジュニア選手権・大学選手権では、ベンチ入りしている監督は選手と話をすることができない。ただし、ウォームアップを手伝うことはできない。） ⑨ 負傷した選手が、治療のためにコートを離れなければならない場合は、主審の許可を得て、副審（または審判委員長かリザーブレフェリー）が同行する。 ⑩ 主審とアイコンタクトを取り、相手チームに 1 分ごとに時間経過を通知する。 ⑪ 回復時間の終わりに、スコアラーに「RIT の種類」-外傷性負傷を確認し、スコアシートに必要な詳細を記録するよう指示する。試合再開前に、記録用紙の備考欄に正しく記載されていることを確認する。 ⑫ 主審が回復時間終了のホイッスルをした後、全選手にポジションに着くよう積極的に指示する。 ⑬ 負傷した選手がプレーを続行できない場合は、そのセット（試合）は終了する。 副審は、次のセットのトスを確認しスコアラーに伝える。 不完全なチームであると宣言され、大会責任者（競技委員長または審判員委員長、または大会実行委員長）の試合終了の最終決定後、主審の試合終了の時刻をスコアラーに伝える。	

			主 審	副 審	スコアラー・アシスタントスコアラー
メディカルアシスタンスプロトコール	リカバリーインターラプション	(猛暑等厳しい気象条件による病気)	① 競技委員長が、猛暑対策のいずれかを適用すると決定した場合、大会は厳しい気象条件の下であることが公式に承認され、この場合にのみ、主審は RIT(厳しい気象条件)を許可できる。 ② 手順は RIT(外傷性負傷)と同様。	① 手順は RIT(外傷性負傷)と同様。	① eスコアの場合は関連するボタンを入力し、eスコアが適用されていない場合は、スコアラーが手動で主・副審と同時に計時する。 計時は、主審が RIT を承認した後のホイッスルから開始し、ライトスコアのブザーが許可された最大5分間の終了を知らせるか、主審がホイッスルしたとき終了する。ただし、主・副審との確認を怠らないこと。 ② スコアラーは、状況を把握し、主・副審と確認のうえ、開始時間(時、分、秒)等、すべての結果を記録用紙に記入する(eスコアの場合は、関連するボタンを入力する)。 ③ 1試合中、1人の選手は、猛暑等厳しい気象条件またはトイレの使用のどちらか1つしか要求できないため、記録用紙のもう一方を「×」で閉じる。
		(トイレの使用)	① 選手がトイレを使用する場合、使用する時間が試合開始前に利用できる時間や通常の中断(タイムアウト、TTO、セット間)を使用できる。その時間を上回るならば、遅れが生じた時点から計時を開始する。主審は、RITの計時を開始することをチームに通知しなければならない。 また、必要に応じてスコアラーにプロトコールの開始時間を伝える。 ② この場合にも、大会医療スタッフをコートに呼ばなければならない。 ③ 選手が戻ったらすぐにホイッスルし試合を再開する。 ④ RIT最大5分を上回る場合は、ラリー開始前に該当チームに遅延の罰則を適用する。	① 選手のトイレの使用が、試合開始前に利用できる時間や通常の中断(タイムアウト、TTO、セット間)中ではなく、チームにタイムアウトが残っている場合は、まずタイムアウトを取り、トイレの使用をすることをチームに伝える。 ② 試合開始前に利用できる時間や通常の中断の時間を上回った場合、遅れが生じた時点から計時を開始することを選択に通知する。 ③ 国民体育大会およびビーチバレー男女ジュニア選手権大会・大学選手権大会を除き、選手がトイレを使用する場合、副審(またはリザーブレフェリー)は、必ず選手に付き添わなければならない。 (副審が選手と異性の場合、主審が選手と同性であれば、主審が付き添う方が望ましい。)	